

IKENOBEKAI NEWS

池戸会報

香川大学農学部同窓会 池戸会

<https://www.bikita.jp/class/index.php?cl=d05997>



特集

農学部開学120周年

母校の近況

Interview ルーツ・ピーター先生 同窓生訪問

学生の海外留学体験記 学生のサークル等活動報告

池戸会本部報告 卒業生のひろば

Vol. 65

DEC. 2023

全会員配布

Contents

特集	「農学部開学120周年」	2
ご挨拶	池戸会会長 岩田 豊志	6
	農学部長 小川 雅廣	7
母校の近況		8
卒業生へのメッセージ ~退職される教員より~		
	加藤 尚 先生	10
	京 正晴 先生	10
訃報		11
	鈴木 裕 先生… (令和5年2月6日御逝去)	
Interview	「英語教育と国際交流で学生の可能性を拓く」	
	ルーツ・ピーター 先生	12
同窓生訪問		14
	中瀬 舞 氏 (学52・修40)	
	白井 沙樹 氏 (学63・修51)	
学生の海外留学体験記		
	中山 英里 氏	16
学生のサークル等活動報告		
	自然科学部	17
池戸会本部報告		18
逝去者一覧		22
卒業生のひろば		23
	支部だより	
	令和4年度会員短信	29
池戸会 Bikitaご利用手順		36
池戸会 クレジット決済の手順		37
PayPayが利用できるようになりました。		38
プレゼント企画		39
	農学部120周年記念コースター+α	

農学部開学

記念式典の様子



記念式典



(写真提供) 学1 白坂正明氏
大正2年度香川県立農林学校第8回卒業記念



(写真提供) 学7 大坪善行氏
昭和33年 農学部校舎北側のガラスハウス

120周年



秋光（前）学部長の挨拶



岩田池戸会会長の挨拶

1903年に「木田郡立乙種農学校」として産声を上げた香川大学農学部は、今年で開学120周年を迎え、これを記念した式典が2023年7月15日（土）に盛大に執り行われました。これに伴った記念事業として「農学部デジタルアーカイブ事業」が遂行され、本学に残されている古い写真、また同窓生の皆様から提供いただいた1,000枚以上の写真がデジタルデータ化されています。記念式典ではこれらの中から選りすぐりの写真を連ねたアーカイブ動画もお披露目されています。

開学120周年記念式典の様子につきましては農学部のHPでも閲覧いただけますが、今号の特集では、アーカイブ動画でも紹介された写真を含め、同窓生の皆様に古の農学部を眺めていただきたいと思います。



(写真提供) 学1 白坂正明氏
昭和29年 香大農学部正面玄関ロータリーにて遺伝育種学研究室5人
四回生のメンバー



(写真提供) 学13山本修氏
昭和41年11月19日 第63回収穫祭・仮装マラソン大会



当日の写真（出典）池戸会報・60周年記念号 昭和天皇の戦後巡幸 昭和25年3月13日から4月1日に行われた四国巡幸の際に、香川大学農学部の前進である香川県立農業専門学校・木田農業高等学校に立ち寄られた

昭和天皇ご臨幸

本学部の開学から120年の中で、晴れがましく、また地域の方と共に熱狂した出来事の一つとして、昭和25年（1950年）3月14日に昭和天皇がご来校されたことが挙げられると思います。当時、昭和天皇は戦後の復興に向けて慰問と激励のために全国を巡幸されており、同年3月13日から17日にかけて香川県においでになりました。香川大学農学部の前身である当時の香川県立農業専門学校（木田農業高等学校に改称）は、その翌4月1日に香川県立農科大学に昇格することになっており、ちょうどその半月前に昭和天皇をお迎えしたことになります。昭和天皇は、当校が誇る農業研究の成果を展示した研究室にて黒上校長から説明をお聞きになられました。展示されていた研究内容は、香川の地質模型、果樹蔬菜分布図、傾斜地の気象・地下水、温州みかんの分類やオリーブ育成、害虫天敵、アカマツパルプや和紙、馬鈴薯、新作物「糊麻（ノリアサ）」、農産加工品などでした。研究教官には、後の香川大学第七代学長を務められた幡 克美先生、農学部長になられた中 潤三郎先生や梶 明先生のお名前があります。昭和天皇は、特に寄生虫とその天敵の標本に見入っておられたようです。

奉迎場となった校庭には1万人近い町民が集まり、日の丸と万歳歓呼の声に迎えられたそうです。当校での滞在は30分ほどではあったようですが、当時の人々が天皇に抱く畏敬の念は今とは比べようもないほど強いものであり、この御行幸は本校のみならず当地域にとっても忘れることのできない大きな出来事であったのではないのでしょうか。



（出典）池戸会報・60周年記念号 右は黒上校長



（出典）池戸会報・60周年記念号 当時の黒上校長が各研究室の業績について陛下にご説明



(写真提供) 学20内藤繁次氏 昭和46年頃 平木のお祭



(出典) 池戸会報・60周年記念号
農専・農科大学時代の正門



(写真提供) 学20内藤繁次氏 昭和46年頃 池戸の七夕祭



(写真提供) 学20内藤繁次氏 昭和46年頃 松原病院



(写真提供) 瀬尾光興氏 昭和35年頃



(写真提供) 瀬尾光興氏 卒業論文発表会 (昭和38年3月)



(写真提供) 瀬尾光興氏 休み時間

謝辞

農学部開学120周年事業および式典の開催にあたり、ご支援・ご協力をいただいた同窓生の皆様に本会報の場をお借りし、改めまして感謝申し上げます。



ご挨拶

池戸会会長 岩田 豊志 (学20)

ロシアのウクライナ侵攻は依然として継続していますし、直近ではハマスがイスラエルを急襲したニュースも報じられ、世界中が混沌として思いもよらない時代になりつつあります。遠い世界のように感じますが、食料自給率が低く、資源も乏しい日本は様々な影響を受けやすく、物価高騰へ繋がり、国民生活に影響を及ぼしつつあります。

また、4年近くコロナ感染症の猛威に晒され、日常生活への多大なる影響を受け、複雑な思いを種々お持ちになってこられた会員の方も多いと存じます。今年の5月18日から2類から5類に変更され、油断は大敵ですが少しは穏やかな日常になってきたと思います。

そんな中、6月18日には池戸会総会が行われ、会長として2年目を迎えることとなりました。総会終了後にはコロナ禍以前のように講演会も行われ、金森秀行氏(学19回 農業工学科、元JICA国際協力専門員)により「国際協力の仕事と香川のため池技術の開発途上国への普及」というお話を聞かせていただきました。金森さんは同じ下宿の先輩で当時の私の生意気な態度や言葉使いについて注意していただいたことをありがたく思い出します。15年近く前に北海道でお会いしてからお目にかかる機会がなかったのですが、久しぶりに楽しい会話をすることが出来ました。会食を伴った懇親会も行われ、相撲甚句も披露していただき有意義な一日を過ごせました。

また7月15日には香川大学農学部開学120周年記念式典も滞りなく開催され、何森健先生(香川大学名誉教授)による希少糖の研究成果の講演をしていただきました。昨年の会報で開催の協力とご寄付の依頼をお願いいたしましたところ予想以上の寄付金をお寄せいただきました。式典にも多くの方に出席していただき厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

秋光(前)農学部長や大学関係者の皆様にも大変喜んでいただきました。

支部活動も少しずつ活性化しています。過去3年間、全ての支部で総会は行われていませんでしたが、昨年末に高松支部と高松東部支部の総会、合同懇親会が行われ、今年になって京滋支部、西讃支部、岡山支部等の総会が開催されました。本部役員も参加させていただき、有意義な会になったと思います。また、休会状態であった坂出支部の再建総会が11月12日に予定されており、合わせて13支部の総会が開催されることとなります。さらに今まで支部の無かった九州で支部設立の動きが進んでおり、池戸会の活性化に繋がっていくと役員一同喜んでいきます。クラス会の開催も少しずつ増えており、その際に現在の香川大学農学部を見たいという会員の訪問希望があり、本部役員の先生方が対応していただいています。

今年も11月3日に農学部収穫祭が行われ、昨年以上の多くの方に参加していただきました。

池戸会では会員の皆様が気軽に集いそれぞれの地域で、地域に合った活動を展開して活性化を図っていただくとともに、会員及び各支部から本部へのご要望があれば、積極的に取り入れていくことで発展に繋がっていきたく考えています。池戸会の活動に対しましてなお一層のご理解とご支援をお願いいたします。

最後になりましたが、池戸会会員の皆様のご活躍とご多幸を心よりお祈りいたします。

農学部長



ご挨拶

香川大学農学部長 小川 雅廣

池戸会会員の皆様、日頃より香川大学農学部の教育研究に多大なるご支援を賜り、誠にありがとうございます。2023年10月から秋光和也先生の後任として農学部長を務めさせていただいております。どうぞよろしくお願い致します。

香川大学農学部は、1903年に創設された木田郡立乙種農学校を起源とし、その後香川県立木田農林学校、香川県立農科大学など数回の変革を経て、現在の香川大学農学部になりました。2023年4月で開学120周年を迎え、同年7月に120周年記念式典を、岩田会長はじめ多くの会員の皆様にご出席いただき、盛大に開催することができました。120年に及び教育研究の軌跡を共有するとともに良い機会となりました。心より厚く御礼申し上げます。長い歴史のなかで伝統は今に受け継がれていますが、時代に合わせて進化もしています。現在の農学部の教育（学び）の特徴と、大学院農学研究科の研究の特徴を紹介させていただきます。

まず、学部教育の特徴を紹介します。香川大学農学部は応用生物科学科の1学科制をとっており、そのなかに「先端生命科学」、「アグリサイエンス」、「フィールド環境」、「バイオ分子化学」、「食品科学」の5つの専門コースがあります。入学した学生は1年半をかけて5コースの教育研究内容を理解した上で、専攻したいコースを選びます。この制度は入学してからじっくり考えて専門コースを決められるので在学生には好評のようです。3年次からは研究室で研究を始めることとなりますが、意欲のある学生は1年次からでも研究室に仮分属して研究をすることができるようになっていきます。もう一つの特徴は国際教育です。2023年度から「国際科学コミュニケーションプログラム」という英語でのコミュニケーション能力を高めるプログラムを始めました。本プログラムでは、既存の英語科目「国際英語演習」、「国際応用科学研修」に加え、新しく開講した「ベーシックバイオロジー」、「ベーシックケミストリー」、「International Presentation: Thesis」などの英語で学ぶ専門科目を履修します。プログラムに登録した学生は、自分の研究を英語で口頭発表できる能力を卒業時まで身に付けることを目標としています。

次に、農学研究科の研究の特徴を紹介します。同研究科は応用生物・希少糖科学専攻の1専攻からなります。専攻名に入っている希少糖とは、「自然界に微量にしか

存在しない単糖とその誘導体」のことで、池戸会の会員でもある何森健教授（現在は名誉教授）によって提案された造語ですが、今では広辞苑にも掲載され、認知度が上がりつつあります。自然界に微量にしか存在しなかったはずの希少糖ですが、何森先生が発見した微生物酵素によって大量に生産できるようになり研究は大きく進展しました。50種類以上ある希少糖のなかのいくつか（D-アルロースやD-アロース）には生活習慣病の予防効果や抗がん作用が見つかっており、日本のみならず世界でも注目されています。この希少糖研究を先導してきたのが農学研究科と農学部です。現在は、食品、農薬、医薬品、その他の工業製品への応用を目指して、本学の医学部、創造工学部や民間企業と連携して研究を進めています。農学研究科には希少糖研究以外にも「生命」、「食料」、「環境」をキーワードにした魅力的な研究が数多くありますので、香川大学農学部・農学研究科の公式ホームページをご覧くださいと思います。

最後にグローバル教育について紹介します。現在、東南アジアを中心に12の国・地域から25名の留学生（2023年10月時点）が農学部キャンパスで学んでいます。コロナの影響で留学生数はコロナ前の半数以下にまで減ってしまいました。国が求めているグローバル人材の養成には、キャンパスに留学生を増やすことが必要です。そのために、2024年10月から農学研究科に「食と環境保全」特別コースを開設します。コースの特徴は、食料と環境保全関連の専門科目を英語と日本語で提供し、留学生と日本人学生が同じ教室で協力しながら学ぶことです。これにより、留学生は日本語力が、日本人は英語力が鍛えられ、多様性やコミュニケーション力が身につきます。いくつかの講義科目や実習科目では、コンソーシアム企業（県内外の食品企業や農業法人）、地方自治体にも協力いただく予定です。本特別コースを修了した者は、専門性とコミュニケーション能力を備えた真のグローバル人材として社会で活躍してくれるものと考えています。国際関係の情報はホームページに随時更新していますのでご覧ください。

世界は食料危機や気候変動問題に直面していますが、香川大学農学部・農学研究科ではそうした問題の解決に貢献できる人材と研究成果をこれからも提供していく所存ですので、引き続きご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

母校の近況 NEWS

教員の昇任

令和5年4月1日

教授 山口 一岩 (沿岸物質循環論)

教員の採用

令和5年4月1日

助教 青木 伸輔 (食料生産学領域)

令和5年10月1日

助教 富吉 啓太 (園芸科学領域)

令和5年4月1日

助教 原 康雅 (生物分子化学領域)

受賞等

安井 行雄 先生

日本動物行動学会誌 Journal of Ethology Editor's Choice 2023を受賞し、京都大学理学部での第42回大会において表彰を受けました。個人として3年連続の快挙になります。



宮本 菜柚 さん

(農学研究科2年)

名古屋大学で開催された第75回日本生物工学会全国大会において、学生優秀発表賞を受賞しました。



渡邊 翔 君 (農学研究科1年)

京都大学で開催された2023年度日本海洋学会秋季大会において若手優秀発表賞を受賞しました。



中川 知寛 さん

(農学研究科1年)

新潟大学で開催された酵母遺伝学フォーラム第56回研究報告会において、ポスター発表部門・学生発表賞を受賞しました。



水田 圭祐 先生

日本作物学会第256回講演会にて優秀発表賞を受賞しました。



原 康雅 先生

令和5年度日本生薬学会学術奨励賞を受賞しました。



多田 邦尚 先生

日本珪藻学会論文賞を受賞しました。



川人 恵理香 さん

(農学研究科2年)

令和5年度日本植物病理学会大会において、学生優秀発表賞を受賞しました。



大野 健太郎 先生

園芸学会年間優秀論文賞を受賞しました。



大西 瑠偉 君

(学部4年生)

第70回日本生態学会大会ポスター賞優秀賞を受賞しました。



安井 行雄 先生

2022 Springer-Nature, Research Highlights - Evolutionary Biologyを受賞しました。受賞論文はSpringer-Nature社の学術雑誌は数百に上り、その年に公表された1万編を超える進化生物学の論文の中で大きな科学的ブレイクスルーを成し遂げた最もインパクトのある論文9編中に入りました。



三好 美玖 さん

(愛媛大学
連合農学研究科
博士課程2年)

竹崎 真帆 さん
(農学研究科2年)

第8回国際希少糖学会でポスター賞を受賞しました。



松沢 智彦 先生

日本農芸化学会農芸化学奨励賞を受賞しました。受賞表題は「培養法とメタゲノム法を駆使した糖質分解酵素の探索」です。



杉山 康憲 先生

公益財団法人エレキテル尾崎財団源内奨励賞を受賞しました。



飯田 健斗 君

(農学研究科2年)

岡山大学で開催された日本ポリアミン学会第13回年会において優秀学生発表賞を受賞しました。



卒業生へのメッセージ

～退職される教員より～

植物分子化学研究室 加藤 尚 先生

私の研究室には現在までに71名の学部学生、50名の修士課程学生、26名の博士課程の学生が在籍しました。在籍したすべての学生のごことは明確に覚えています。学部の専門科目では、毎年80名から120名程度の学生が受講しました。在籍中に、USDAベルツビルに客員研究員として1年6ヶ月、スペインカディス大学に客員教授として約1年滞在しました。その後カディス大学には香川大学の2名の修士の学生が短期留学しました。これからはAI等の急速な技術の発達により、職場の状況が大きく変わっていくかわかりません。しかし、皆さんが今まで培った経験や技術を生かせる場所は必ずあると思います。私は、今年度3月に退職します。4月からの新しい生活を楽しみにしています。皆さんお元気で。



植物細胞生理学研究室 京 正晴 先生

令和6年3月末に定年退職いたします。私の研究室で真摯に実験に取り組んでくださった方々に心より感謝いたします。共に過ごしたひとときは幸でした。今、皆さんはどんな課題に取り組んでおられることでしょうか、ご健闘とご健勝をお祈りします。

私は瀬戸大橋開通の前年に赴任し、翌年から発足した細胞資源科学大講座植物細胞生理学研究室(真山先生)に異動しました。第二バイテクブームの頃で地元企業から研究員が二人もおいででマリーゴールドや藍のカルスを培養して新規の殺線虫物質生産に取り組んでおられました。私の最初の仕事はアグロバクテリアの輸入使用申請手続きでした。果たして誘導された形質転換毛状根は、増殖も早くカルスより桁違いに高い殺線虫活性を示し大変喜んで頂けました。その後真山先生はご栄転され後任の福井先生と共に種々の毛状根による物質生産や桑原先生からご紹介頂いた酒米のテーマなどで新たな受託研究が始まり多くの備品類を整えることができました。バブル期の残照でしょうか。企業の方々との交流もよき思い出です。その後も花蜜や表皮腺細胞で希少糖やペプチドホルモンを生産させる共同研究や、古巣のご縁で重点や特定研に参加させて頂いたり、長らく恵まれた研究環境を維持できました。県民ホール/まなび館を借りて日本植物細胞分子生物学会/シンポジウムを開催したこともありました。手伝ってくださった先生方学生さん有難うございました。丁度台風の直撃で最終日の午後

は会場前の道路が冠水しハラハラしましたが、いまでは懐かしい光景です。いろんなご縁でドイツ、フランス、シンガポールなどに長期中期滞在する機会もいただきました。activeな所は何かとセミナーやパーティーなどのイベントが頻繁で部外者には楽しいですがシビアな人事も垣間見え、諸々を見聞するたび池戸の順境に安堵しました。そこにて花粉の栄養細胞が胚発生能を獲得するという不思議な現象に執着し、実験三昧の日々を長らく過ごさせて頂きました。ささやかな発見が二三あったものの時間が尽きました。亡き恩師やお世話になった方々のあきれたような笑顔が浮かびます。有難うございました。末筆ながら農学部のさらなるご発展を祈念いたします。



訃報

追悼 鈴木 裕 先生

名誉教授 鈴木先生は令和5年2月6日に97歳で永眠されました。

先生は、大正14年8月25日に愛知県にお生まれになり、昭和22年9月東京帝国大学農学部農芸化学科をご卒業後、商工省東京工業試験所、日本農産工業株式会社、香川県農業試験場勤務を経て、昭和40年4月香川大学農学部講師に就任し、以後、同助教授、同教授を経て、平成元年3月定年によりご退職されました。

この間、24年の永きに亘って、学部学生、大学院修士課程及び博士課程学生の教育と学術研究に専念し、専門とする生物化学の分野では、「米とその澱粉の理化学的品質と登熟環境に関する研究」(昭和40年に東京大学より博士号の学位授与)をはじめ、米飯の食味物性と化学成分、植物体、あるいは、植物病原菌の生産する生理活性物質に関する研究等多くの業績を挙げました。

先生は大学及び学部の管理運営において、香川大学評議員、香川大学入学試験委員会委員長、その他、本学及び本学部内の各種委員会委員、さらに、本学部における学科主任として多大に貢献しました。

また先生は、日本農芸化学会、日本生化学会、日本澱粉学会、日本栄養・食糧学会等の評議員として活躍すると共に、香川県地域食品点検事業食品テスト品目別小委員会委員及び香川県技術アドバイザーとして、地域産業の発展に大きな役割を果たしました。またChemical Abstractsの抄録者として長年貢献され、表彰されました。

退官後は、勇信酒造(株)の創造科学中央研究所の所長に就任し、コメの多角的利用を考え、入浴剤や化粧品などを開発しました。私は毎日、この入浴剤のお世話になっています。



<研究室の思い出>

先生には、大学4年の4月から一人だけの卒論生として、1年間、しっかり、ご丁寧に、ご指導いただきました。先生が前年に東大に内地留学で研究していた、イネのすそ枯れ病の病原菌の成長阻害物質の単離・結晶化という卒論テーマをいただきました。それまでにほとんどの必要単位を取得していたので、朝9時前から夕方6時前まで、毎日、悪戦苦闘して、この菌を培養して、その培養液から分離精製しました。その精製物を小さなフラスコに貯め続けて、三カ月が過ぎた頃、ある朝、棚に置いてあったフラスコ一杯に結晶ができていました。後にこれが未知物質であることが判明し、学会論文として公表されました。結晶をみた時、それまでの私の人生で一番感動しました。そして研究者になろうと決心しました。一つひとつ努力を重ねると必ず結果に結び付くことを、先生から研究を通して教えていただきました。また、流し一杯に使用したガラス器具を置いていた時に、先生は何も言わずにきれいに洗ってくれました。これは私ができるだけ多くの時間、実験に集中できるようにとのご配慮でした。その後は、できるだけ早くかたづけするようにしました。このように言葉に出さないで、心に響く教育をしていただきました。先生の温かい愛情あふれるお人柄は、先生のご指導を受けた多くの学生一人ひとりの心に深く刻まれていることと思います。

卒業後も先生には、私の人生の重要な時にいろいろご尽力いただき、心より感謝致しております。

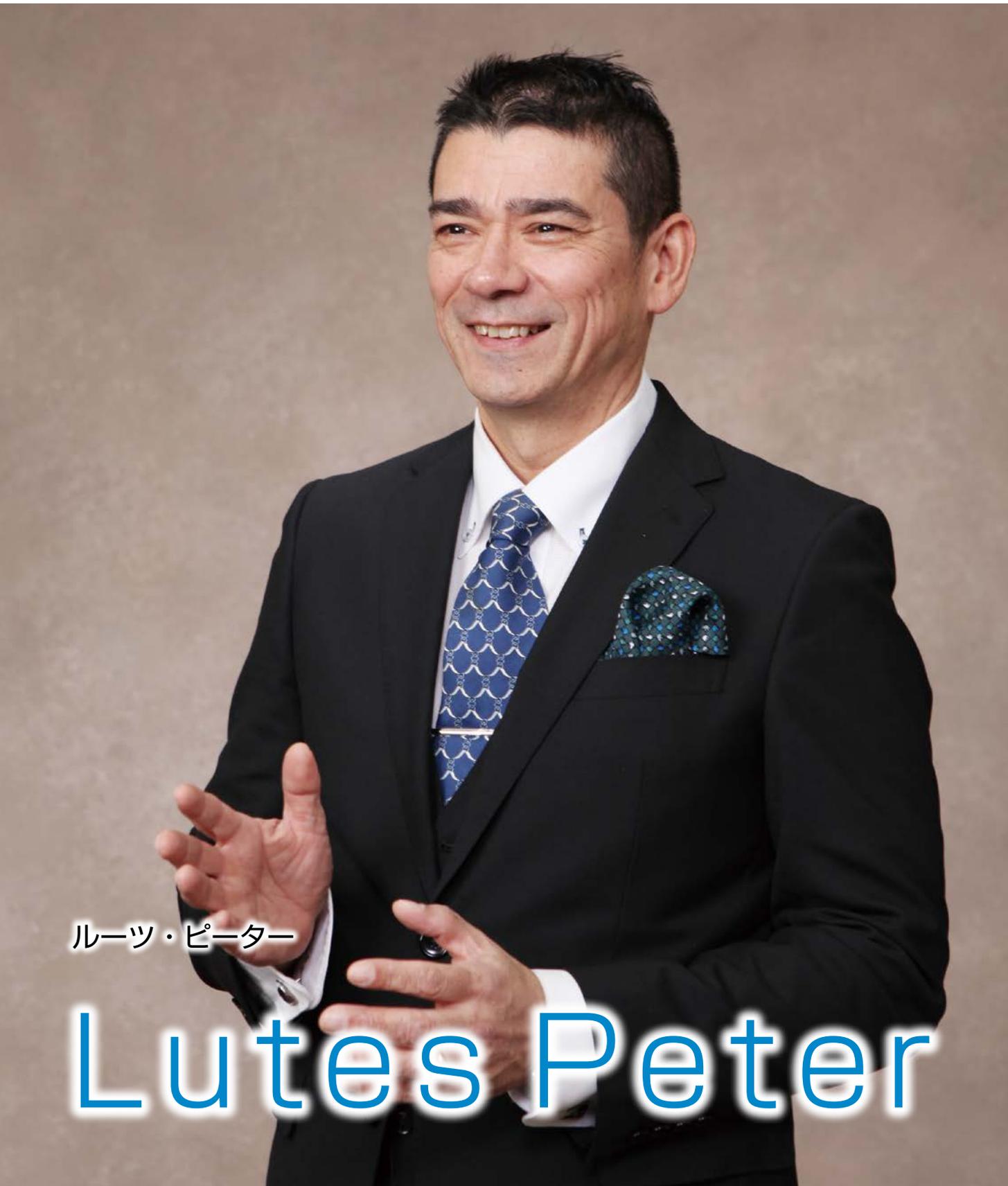
先生はほとんどのお仕事から解放された後97歳過ぎまで、お得意であった語学学習を日課にされて、9か国語にも及んでいたそうです。このような不断の努力を続けられる先生の姿勢は、後期高齢者になった私も見習うべき点が多いと感じています。奥様とよく出かけられた海外旅行にも語学を生かし、時にはその国の言葉でその国の民謡を歌って、現地の人から拍手喝采だったそうです。

先生、どうか天国で安らかに眠りください。そしていつまでも我々を御見守り下さい。

井上 貢 (学14卒、香川短期大学名誉教授)



英語教育と国際交流で学生の可能性を拓く



ルーツ・ピーター

Lutes Peter

編集委員：香川大学農学部に着任されるまでのご経歴、そして、企業から大学教員へキャリアアチェンジしたきっかけを教えてください。

ルーツ先生：着任前は多様な環境で経験を積み、教育の軸を形成しました。企業講師として、語学プログラムの責任者を担当しました。企業研修は成果重視であり、成果を可視化できる研修作成・実施に携わる中で、プロジェクトベースの学習や教育、専門的な語学コースに魅力・やりがいを感じました。アカデミアに移った理由は、社会に出る前の可能性にあふれた学生の成果実現に貢献したいという思いからです。英語は数ある言語の中の1言語ですが、キャリアを左右する可能性のある重要な言語だと考えます。

編集委員：農学部で英語言語学が専門の教員がいることは非常にユニークですね。担当されている授業や研究内容について教えてください。

ルーツ先生：私は農学部の全学生が必修とする英語コースを担当しています。農学部では、全学年、全学期に英語の選択科目があり、さらには高い国際コミュニケーション能力を養成する専門的な英語カリキュラムがあります。学生にとって英語学習が身近なものとなるよう、個々の学生の関心・レベルに合う様々な選択肢をそろえています。

編集委員：ルーツ先生が関わっている国際交流プロジェクトについて教えてください。

ルーツ先生：国際交流は農学部にとって非常に重要です。コロナ禍前には、農学部の全学年の学生を対象に、海外5大学との国際インターンシップを設立しました。近年ではベトナム・タイでの1か月強の国際研究インターンシップを新設し、コロナ禍での国際交流の形を実践しました。また、日本人と留学生を対象に修士プログラムを新設し、高度な英語コミュニケーション能力の強化を行っています。農学部全体で高い国際性を養うことを目指し、様々な取組を行っています。

編集委員：大学における英語教育の未来、特にAI技術の登場について、どのようにお考えでしょうか。

ルーツ先生：AIについては、学生や教育への悪影響が一部懸念されていますが、私はそうは思いません。AIは単なる道具であり、電卓やコンピューター、インターネットなど、教育者が心配していた多くの道具と同じです。重要なのは、それをどう使

うかです。AIが倫理的な方法で使用され、学習や研究が促進されることを期待しています。

編集委員：大学教員の「やりがい」について教えてください。

ルーツ先生：私は教育者として、専門分野について指導することだけではなく、若い人たちの成長をサポートすることに大きなやりがいを感じます。

編集委員：農学部の教員として印象に残った経験や深い影響を与えた瞬間について教えてください。

ルーツ先生：あと5年で定年を迎えるにあたり、振り返ると多くの素晴らしい経験が思い浮かびます。私は未来を見つめて、学生のためにより素晴らしい瞬間を作っていくので、2028年にまた私を訪ねてください！



International internship(後列の中心がルーツ先生)



Overseas lecture

Profile

Lutes Peter (ルーツ ピーター)

准教授、博士(コミュニケーション学) (フィリピン大学)

専門分野：応用コミュニケーション学

Eメール: lutes.peter@kagawa-u.ac.jp

https://www.ag.kagawa-u.ac.jp/applied_communication/

卒業生の皆さんへのメッセージ

香川大学農学部はグローバル教育に力を入れています。その一つとして学生を海外の提携大学に派遣しています。しかし、経済的な理由で断念する学生も多くいます。そうした学生の海外派遣を支援して頂ける方はEメールで私まで連絡してください。よろしく申し上げます。

同窓生訪問

白鶴酒造株式会社

中瀬 舞 氏(学52・修40) 白井沙樹 氏(学63・修51)

今回の同窓生訪問は、白鶴酒造株式会社・研究室・主任の中瀬舞氏と研究員の白井沙樹氏のお二人にお話を伺いました。中瀬氏は2003年4月に香川大学農学部生命機能科学科に入学され、2009年3月に修士課程を修了されたあと、2012年3月に九州大学大学院農学研究院で博士の学位を取得され、白鶴酒造に入社されて企業研究者としてご活躍です。また、白井氏は、2014年4月に香川大学農学部応用生物科学科に入学され、2020年3月に修士課程を修了されたあと、白鶴酒造に入社されました。今回は、同じ池戸会の同窓生である女性企業研究者が同じ会社と一緒に清酒の開発研究で活躍されているということでお話を伺いました。



編集委員：まずは、中瀬さんにお話を聞きしたいと思います。はじめに香川大学農学部に入社された動機についてお聞かせいただけますか？

中瀬氏：祖父は、アマゾンに水草採取に行ったり、水草に関する本を書いたりする水草の同定・分類学の研究者です。おじいちゃん子だった私は、小さい頃から祖父に水草の話聞いて生物に興味を持つようになりました。中学・高校のころには、水草の生存戦略など、細胞内で起こっている現象の話聞くことで、生き物の体の中の仕組みに興味を持ち、もっと知りたいと思うようになり、生物が勉強できる農学部を志しました。香川大学を選んだ理由は、高校時代、英語が苦手な(笑)、二次試験に英語がいらないということと、出身地の神戸と香川は距離的に近いこともあり、いろいろな条件がちょうど良かったので、香川大学に進学を決めました。

編集委員：学生時代はどんな生活をしていましたか？

中瀬氏：学部2年生までは、バレーボールサークルに明け暮れていて、研究室はどこに行くかはあまり深く考えていませんでした。3年生になって研究室訪問をして、どうせやるならしっかり研究がしたいと思ったこと、様々な細胞内現象について研究していること、そして当時香川大学におられた竹川 薫先生のキャラクターがおもしろくて(笑)、竹川研究室を選びました。研究室分属後は、実験することが楽しくてのめりこんでいきました。また、細胞内の様々な現象について知ることができ、ワクワクしながら論文を読んでいたことをよく覚えています。しかし、修士課程までは行こうと思っ

ていましたが、博士課程まではあまりにも隔たりが大きくてイメージがわいていませんでした。ですので、修士課程では就活をしていたのですが、研究に対する思いが不完全燃焼でした。今就職したら後悔するなと思っていたそのタイミングで竹川先生が九州大学に異動することが決まり、悩んだ末、博士課程に進学することを決心しました。そのため、修士2年から九州大学で研究し、そのまま博士の学位を取得しました。取得後は、白鶴酒造の研究職に採用されました。学位取得後すぐの博士号を持った人を採用するのは、白鶴酒造では私がはじめてでしたので、会社としてもチャレンジだったのではないかと思います。

編集委員：現在のお仕事についてお聞かせいただけますか？

中瀬氏：採用初年度に「発酵性の高い酵母の育種方法の開発」というテーマに取り組むことになりました。遺伝子組み換えではなく従来からの変異株育種方法で進める方針となったため、大学時代は遺伝子組み換え実験をメインで行っていた私は、最初随分と戸惑いました。いろいろ考えた中で、細胞内のATPを消費させて解糖系を亢進させることで発酵性を上げられないかと考えました。また、私はオルガネラの中で液胞が好きだったため、液胞を主役に何かできないかと思い、細胞内でATPを消費している液胞のV-ATPaseに着目しました。V-ATPaseを阻害する薬剤に耐性となる株をとることで、V-ATPaseの活性が高く、ATPをたくさん消費して細胞内のATPが半減した酵母が選抜でき、実際に高発酵性酵母育種法



二人が開発に関わったお酒・大吟醸「雫花（しずか）」 開発した清酒の成分をHPLCで分析する中瀬氏の
前で取材を受ける中瀬氏（右）と白井氏（左）

を開発することができました。大学時代の研究室では、いろいろな細胞内生命現象の研究テーマをやっている人がいて、幅広い知識を研究室のセミナー等で聴く機会があり、多面的に生命現象を見る力を身につけることができたと思います。このことが今の仕事に非常に役に立っており、そのような環境で研究させていただけたこと、竹川先生や田中直孝先生には本当に感謝しています。

酒造り現場の大きなタンクで、自分が選抜してきた酵母がブチブチと泡を出して発酵しているのを見ると我が子を見ているようで「頑張れー!」と言って毎日現場に行っていました。

編集委員：女性研究者として企業で働くことで大変なことはありますか？

中瀬氏：2012年に入社して、今年で12年目になります。入社した年の冬に結婚しましたが、結婚してすぐに夫が単身赴任になってしまって、今は小学3年生の娘と4歳の息子の子育てをしながら働いています。実家が自宅から徒歩5分のところにあり、仕事で遅くなるときは実家の両親に子供の面倒を見てもらえるのでとてもありがたいです。

2014年に一人目を出産しましたが、しっかり産休・育休を取らせてもらいました。また、産休中は会社から近況についての手紙など、職場との接点が切れないような配慮があり、女性が働きやすい職場だなと感じました。2019年に二人目を出産しましたが、とくにコロナ後はオンラインによる在宅勤務ができるようになって劇的に働きやすくなりました。

子育て中は、仕事に加えて家事育児、そして子供の学校行事や急な発熱に対応しながら働くため、どうしても一人では難しいことが多くなってきました。日々悩みながらではありますが、今は幸い同じチームの白井さんや会社の皆さんがサポートしてくれているので本当に助かっています。

編集委員：昨年と同じ香川大学農学部出身の白井さんがチームに加わって一緒に仕事をするようになったのですね。白井さんが白鶴酒造に入った動機やこれまでのお仕事についてもお聞かせいただけますか？

白井氏：私は、修士課程のときに半年間スペインに留学する機会があり、留学先でスペイン語がほとんど話せない中、現地の方とのコミュニケーションのきっかけとなるツールがお酒でした。また、そこで、出会った日本人研究者の方からお酒の魅力について力説され、清酒業界で働いてみたいと思うようになりました。当時の指導教員から中瀬さんのお話を聞いて、白鶴酒造に興味を持って採用試験を受けました。大学時代の研究では全く酵母を扱ったことがなく植物をモデル生物として研究していましたが、熱意が伝わったのか運良く採用されました。

入社して4年目になります。最初の2年間は、甘酒の開発やノンアルコール日本酒の開発に関わっていましたが、昨年从中瀬さんと一緒に、酵母の育種に関わり、女性をターゲットとした低アルコール性の大吟醸酒「雫花（しずか）」を開発しました。

編集委員：最後に同窓生、在校生にメッセージはありますか？

中瀬氏：女性のキャリアプランの中で、結婚・出産は大きなイベントとなります。出産するとなるとどうしても仕事を一旦休まないといけなくなり、その時に自分の働き方や今後のキャリアについて考え悩むかもしれません。キャリア形成を考える上で「自分はバリバリ仕事をしたいのか?」、それとも「出産、子育てをしつつ、仕事もしたいのか?」で進路が変わってくると思います。年齢とともに考え方は変わってくるかもしれませんが、学生時代に一度将来の自分のキャリア形成について考える機会を持つのも良いかなと思います。

留学体験記

香川大学大学院農学研究科（修士2年） 中山 英里

私は2022年の9月から約5ヶ月間、スペインのバルセロナにあるCRAG (Centre for Research in Agricultural Genomics) という研究所に留学しました。私が留学に挑戦した理由は、まず、大学で培った英語力を試したかったこと、そして自分の研究テーマである青枯病菌について、世界的権威である Marc Valls 博士の指導のもとで研究を行いたいと考えたからです。大学入学後、私は苦手だった英語やプレゼンテーションの練習に励みました。そのため、実際に自分の英語がどのレベルのものなのか確認したいと考えていました。また、英語でのスピーキングを向上させるためにも、英語を日常的に使う環境に身を置くことが必要でした。しかし、学部生の時には新型コロナウイルス感染症の影響で実現することができなかつたため、状況が改善された大学院生の時に海外留学を決断しました。

私の研究は、植物病原菌である青枯病菌を酵母を用いて解析するものです。先行研究では、酵母を用いたデータが豊富にありましたが、最終的な目標は青枯病菌の感染機序を理解し、それを防ぐための方法を見つけることだと考え、そのためには、植物実験のデータが必要でした。そこで、Valls 博士がいる CRAG 研究所に留学し、植物実験の知識と技術を習得するために日々努力しました。

留学中、印象的だったのは、ポジティブなこともネガティブなことも率直に意見を述べる文化でした。特に良い結果が出たとき、ボスは大袈裟なほど褒めてくれました。また、ラボミーティングでは積極的なディスカッションが行われ、誰もが自由に発言できる雰囲気がありました。これは手を挙げて話し始めることが多い日本のゼミとは異なり、非常に刺激的でした。年齢や立場に関係なく、全員が平等に扱われる環境に驚きました。また、多くの Ph.D. やポスドクと一緒に研究することで、自分の研究のアプローチや考え方が大きく変わりました。さらに、効率的に実験を進め、日々の生活にメリハリをつけることが重要であることを学びまし



た。例えば、早朝7時から集中して仕事を進め、午後には自分の時間を持つという生活スタイルの人が多かったので、モチベーションを保ち、きちんと休息をとるというのは非常に効率的な方法だと感じました。

私は高校生のときに短期の語学留学を経験しましたが、今回の留学から語学留学と研究留学は全く異なるものであることを実感しました。語学留学は英語力向上に寄与しますが、研究留学は専門知識とスキルを高める機会でもあります。特に私は今まで扱ったことのない研究対象である植物の手法を学ぶことができ、それを研究室に還元することができたと感じています。また研究だけではなく、日本で生活していれば会うことのできなかつた、自分とは異なる価値観を持った人々とも交流でき、自分の視野を広げることができたのは非常に良い経験でした。

最後に留学するにあたり、サポートしていただいた田淵先生、また快く受け入れてくださった Valls 博士に感謝申し上げます。



自然科学部



畑管理

農学部畑の一角を借りて、部員の育てたい作物を栽培しています。

自分たちで育て方を模索しながら栽培するので、大変ですがやりがいがあります！

収穫したものは部員で美味しくいただきます😊

冬には収穫した野菜で鍋会をしています！

部員のやりたいことを叶える

自然科学部は部員からやりたいことを募集して、それを皆でやっています！

例えば、キャンプや釣り、新入生歓迎のBBQやいちご狩りなどです。

この他にも自然に関わることでやりたいことを出し合って計画しています。



収穫祭

収穫祭では毎年、NPO法人どんぐりネットワークさんと一緒に子供たちに楽しんでもらえる内容を考えています！

どんぐり銀行の臨時支店も出店されます。

去年はスタンプラリーとどんぐりを使ったクラフト体験を行いました。

多くの方に来て頂き、子供たちの楽しそうな顔を見ることができました！



最後に

今年も収穫祭ではどんぐりネットワークさんとコラボしたイベントを企画しました！毎年、面白いイベントを用意していますので多くの方に来て頂きたいです！！

池戸会 本部報告

令和5年度 池戸会本部役員

会 長 岩田 豊志 (学20・園芸)	中杉 光廣 (学21・園芸)	岡山
副会長 岡崎勝一郎 (学19・食品)	森 宏樹 (学23・農工)	
田辺 和司 (学20・農学)	平澤 正恭 (学18・食品)	
林 宏年 (学22・農工)	黒川 義夫 (学17・農工)	
顧問 農学部長 秋光 和也	木村 義一 (学19・農学)	
前会長 杉本 利行 (学16・農化)	千田 良信 (学19・園芸)	
前々会長 五井 正憲 (学8・園芸)	川東 敬幸 (学22・農工)	
評議員 (別紙一覧表)	松原 智子 (学24・食品)	
監査員 松下 時夫 (学17・食品)	柴野ゆりか (学32・農学)	
末澤 克彦 (学25・園芸)	三野 真弓 (学34・園芸)	
理事 古市 崇雄 (学34・農学)	多田 邦尚 (学28・農化)	総務
今岡 秀之 (学32・農芸)	木村 義雄 (学31・食品)	会計
川崎 陽通 (学24・農工)	奥田 延幸 (学34・園芸)	総務
香川県庁	一見 和彦 (学37・生物資源)	会報
高松市役所	田中 直孝 (学40・生物資源)	学内活動・情報
徳島	幹事 山口 一岩 (学32・生物資源)	
	松沢 智彦 (学53・生命機能)	

令和5年度 各支部長及び支部選出本部評議員一覧表

支部名	支部長	評議員	評議員	評議員
大 学	多田 邦尚(学28)	木村 義雄(学31)	奥田 延幸(学34)	
県 庁	岡崎 力(学33)	古市 崇雄(学34)	松平 和也(学35)	
市 役 所	今岡 秀之(学32)	壺井多川士(学33)		
三 木		森 宏樹(学23)	本田 正聡(学27)	
大 川	千田 良信(学19)	平松 義孝(学23)	松崎 朝浩(学28)	
高 松 東 部	片山 哲治(学15)	奈良 稔邦(学13)	黒川 幸重(学25)	
高 松 中 央		(再生中)		
高 松	木村 義一(学19)	山本 洋一(学19)	田辺 和司(学20)	
高 松 西 部		片岡 浩一(学5)		
龍 雲	白坂 正明(学1)	石塚 侖(学1)	溝渕 昭七(学1)	
高 松 南 部	川東 敬幸(学22)	高尾 武司(学19)	奈良 稔(学22)	
小 豆	井藤 龍平(学20)	前田 満照(学21)		
香 川	新明 昇(学16)	青木 敏(学20)		
綾 川	小比賀和教(学9)	西谷 寛昭(学19)		
坂 出		(再生中)		
仲 多 度	平澤 正恭(学18)	北山 信夫(学19)	各務 好行(学20)	
西 讃	永田 陽頼(学20)	篠原 重寿(学21)	近藤 博樹(学34)	
愛 媛		(休止中)		
高 知	中澤 祥子(学54)	和田 達夫(学15)		
徳 島	川崎 陽通(学24)	山出 省吾(学19)	安富 範雄(学19)	中西 健(学36)
岡 山	尾野田瑞穂(学26)	羽原 政明(学17)	野村 正己(学18)	猶原 順(学27)
広 島	木村 博俊(学17)	今中 義彦(学11)	中山 長秀(学22)	
島 根	桑原 克夫(学22)	水野 正美(学23)		
山 口	松原 賢治(学17)	長山 幸範(学28)	平田 良美(学34)	
兵 庫	葛西 利延(学8)	岩崎 俊一(学15)	武田 和義(学17)	田村 哲哉(学34)
大 阪	柳川 和彦(学26)		大井 寛(学11)	土居 修(学18)
京 滋	米川 順一(学27)	平川 潤(学30)	清水 文雄(学36)	
奈 良	那波 和志(学27)	山本 英雄(学14)		
東 京	祖父江 晋(学22)	伊藤 研治(学22)	井藤 智臣(学23)	
三 重		高井 章(学8)		
愛 知	鈴木 和昭(学19)	高橋 順一(学18)	小田 利一(学26)	

令和4年度 事業報告

- 評議員会、総会の開催 令和4年6月19日（日）
農学部BW106
- 名簿配布 要望のあった方で身元が明らかかな方
- 支部活動の援助 令和4年度卒業・修了生の名簿の送付
(希望された支部)
- 支部総会の助成 開催支部への祝い金の贈呈、本部役員、
教員の出席（通年）
- 同級会及び個人会員へのサービス、会員動向調査（通年）
- 池戸会報第64号編集発行、9,000部、全員配布（12月）
- 学内活動
 - 新入生への祝い品・会報の贈呈（4月・9月）
 - 新入生からの入会金の徴収（4月～12月）
 - 令和4年度卒業生・修了生に記念品（学位記ホルダー
等）の贈呈（9月・3月）
 - 第33回学内ソフトボール大会の主催（4チーム参加：
11月）
 - 農学部収穫祭への協力（11月）
 - 研究室分属した学生にBikitaIDとパスワードを配布
（2月）
- 池戸会活性化対策事業
- 令和4年度支部総会開催状況

支部名	開催日	開催場所	本部出席者
高松支部	11月13日	香川 大渚亭本店	岩田会長
高松東部支部	11月13日	香川 大渚亭本店	



令和4年度 収支決算書（一般会計）

（令和4年4月1日～令和5年4月3日）

収入額	6,097,599 円
支出額	4,588,398 円
差引残額	1,509,201 円

収入の部

費目	予算額（円）	決算額（円）	差引増減（円）
前年度繰越金	1,534,477	1,534,477	0
会費	1,900,000	1,744,000	△156,000
入会金	2,200,000	2,340,000	140,000
寄付金	500,000	479,100	△20,900
利息	0	22	22
雑収入	0	0	0
合計	6,134,477	6,097,599	△36,878

支出の部

費目	予算額（円）	決算額（円）	差引増減（円）
人件費	1,200,000	1,090,000	△110,000
旅費	200,000	100,507	△99,493
事務費	200,000	194,909	△5,091
通信費	1,300,000	1,287,796	△12,204
事務室使用料	230,000	224,927	△5,073
会議費	20,000	37,785	17,785
会報費	1,200,000	1,245,701	45,701
支部総会助成費	100,000	20,000	△80,000
支部援助費	20,000	0	△20,000
同窓活動費	30,000	36,949	6,949
学内活動費	300,000	158,157	△141,843
振替手数料	230,000	191,667	△38,333
雑費	200,000	0	△200,000
予備費	904,477	0	△904,477
積立金	0	0	0
合計	6,134,477	4,588,398	△1,546,079

令和4年度 収支決算書（特別会計）

（令和4年4月1日～令和5年4月3日）

収入額	1,075,706 円
支出額	9,520 円
差引残額	1,066,186 円

収入の部

費目	決算額（円）
繰越金	1,015,692
名簿収入	60,000
利息	14
合計	1,075,706

支出の部

費目	決算額（円）
名簿作成費	0
送料	9,520
雑費	0
合計	9,520

会費地域別納入状況

令和5年3月31日現在

地域	県名	2年度(人)	3年度(人)	4年度(人)
四国	香川	542,000円 (259)	568,000円 (248)	458,000円 (206)
	徳島	86,000円 (41)	70,000円 (33)	76,000円 (32)
	高知	24,000円 (12)	24,000円 (9)	16,000円 (9)
中国	愛媛	52,000円 (26)	40,000円 (20)	56,000円 (24)
	岡山	340,000円 (116)	208,000円 (93)	186,000円 (89)
	広島	80,000円 (36)	70,000円 (33)	50,000円 (24)
九州	鳥取	6,000円 (3)	12,000円 (6)	12,000円 (6)
	島根	20,000円 (9)	26,000円 (12)	16,000円 (8)
	山口	48,000円 (24)	24,000円 (12)	34,000円 (14)
	福岡	28,000円 (12)	44,000円 (13)	26,000円 (13)
	佐賀	2,000円 (1)	4,000円 (2)	
	長崎	14,000円 (7)	14,000円 (7)	16,000円 (8)
	熊本	6,000円 (3)	6,000円 (3)	6,000円 (3)
	大分	36,000円 (18)	28,000円 (14)	26,000円 (13)
	宮崎	10,000円 (5)	8,000円 (4)	
	鹿児島	10,000円 (5)	22,000円 (9)	12,000円 (6)
沖縄	沖縄	8,000円 (3)	10,000円 (4)	6,000円 (3)
	兵庫	170,000円 (80)	142,000円 (69)	174,000円 (77)
	大阪	120,000円 (51)	150,000円 (67)	122,000円 (55)
	京都	52,000円 (18)	24,000円 (11)	36,000円 (17)
	滋賀	18,000円 (9)	28,000円 (14)	26,000円 (13)
	奈良	24,000円 (12)	20,000円 (10)	22,000円 (11)
	和歌山	22,000円 (11)	24,000円 (12)	20,000円 (9)
東海	三重	12,000円 (6)	12,000円 (6)	10,000円 (5)
	愛知	78,000円 (28)	50,000円 (24)	60,000円 (30)
	岐阜	16,000円 (4)	12,000円 (6)	6,000円 (3)
	静岡	36,000円 (12)	34,000円 (12)	24,000円 (12)
関東	東京	56,000円 (22)	46,000円 (21)	62,000円 (26)
	神奈川	46,000円 (23)	38,000円 (19)	48,000円 (22)
	埼玉	32,000円 (16)	36,000円 (18)	32,000円 (16)
	栃木	4,000円 (2)	8,000円 (4)	2,000円 (1)
	群馬	4,000円 (2)	2,000円 (1)	2,000円 (1)
	茨城	10,000円 (5)	8,000円 (4)	6,000円 (3)
	千葉	134,000円 (14)	48,000円 (18)	38,000円 (17)
信越	長野	8,000円 (4)	2,000円 (1)	2,000円 (1)
	山梨	6,000円 (3)	6,000円 (3)	6,000円 (3)
	富山	2,000円 (1)	2,000円 (1)	
	新潟	4,000円 (2)	8,000円 (4)	2,000円 (1)
北陸	石川	4,000円 (2)	4,000円 (2)	
	福井	4,000円 (2)	6,000円 (3)	8,000円 (4)
東北	福島	2,000円 (1)	2,000円 (1)	22,000円 (2)
	山形			
	宮城	2,000円 (1)	2,000円 (1)	4,000円 (2)
	秋田			
	岩手			
	青森		4,000円 (2)	2,000円 (1)
北海道	北海道	12,000円 (6)	8,000円 (3)	12,000円 (5)
合計		2,190,000円 (917)	1,904,000円 (859)	1,744,000円 (795)
	前年比	+82,000円 (+33)	-286,000円 (-58)	-160,000円 (-64)
	うち個人振込	(+59)	(-70)	(-36)
	支部経由	(-26)	(+12)	(-28)

令和5年度事業計画

- 評議員会、総会の開催（令和5年6月18日 農学部BW106）
 - 支部活動、同期会等開催の支援
 - 支部総会等へ本部役員及び教員の派遣
 - 名簿情報等の提供
 - グループでの学内見学希望者のお世話
 - その他
 - 同窓会活動活性化対策
 - 県外支部の再生・新設（卒業生が100名を超える県から）
昨年度に計画した活動は新型コロナウイルスの影響により計画したことが全く活動出来なかったことから、再チャレンジする。
 - 県内支部の活性化及び再編
将来を考え、何がベストかを導き出したい。
 - 収穫祭への参加（コロナによる）
 - ホームページ（Bikita）の利用促進
会員相互の活発な情報発信への活用促進。
 - 入会金納入率の向上
 - 新入学者の父兄への啓発活動の推進
保護者への会報配布（4年間）
 - その他
新型コロナが第5類に移行したことから、アフターコロナ社会に向けて新しい池戸会活動に取り組む。
 - 学内活動
 - 新入生への祝い品・会報の贈呈（4月・9月）
 - 新入生からの入会金の徴収（4月～10月）
 - 第34回学内ソフトボール大会の主催（10月）
 - 農学部収穫祭への協力
 - 令和5年度卒業生・修了生に学位記ホルダーの贈呈（9月・3月）
 - その他
- ※上記行事計画等につきましては、新型コロナウイルス感染症の今後の状況により、出来る範囲で実施することとします。
- 池戸会報第65号の編集発行 全員配布

令和5年度収支予算書

予算額 6,109,201 円

収入の部

費目	4年度予算額(円)	5年度予算額(円)	差引増減(円)
前年度繰越金	1,534,477	1,509,201	△25,276
会費	1,900,000	1,900,000	0
入会金	2,200,000	2,200,000	0
寄付金	500,000	500,000	0
利息	0	0	0
雑収入	0	0	0
合計	6,134,477	6,109,201	△25,276

支出の部

費目	4年度予算額(円)	5年度予算額(円)	差引増減(円)
人件費	1,200,000	1,200,000	0
旅費	200,000	200,000	0
事務費	200,000	200,000	0
通信費	1,300,000	200,000	△1,100,000
事務室使用料	230,000	400,000	170,000
会議費	20,000	150,000	130,000
会報費	1,200,000	2,300,000	1,100,000
支部総会助成費	100,000	100,000	0
支部援助費	20,000	20,000	0
同窓活動費	30,000	30,000	0
学内活動費	300,000	300,000	0
振込手数料	230,000	230,000	0
雑費	200,000	200,000	0
予備費	904,477	579,201	△325,276
積立金	0	0	0
合計	6,134,477	6,109,201	△25,276

住所不明者一覧

本部事務局では、会員名簿台帳の作成・会報の配布・各支部への会員所在通知などのため、全会員の住所等を正確に保持するのに苦勞しています。現在、下記の方々の所在が不明です。ご存知の方はご面倒ですが本部までご一報下さい。本部の連絡先は、裏表紙に記載してあります。

令和4年度住所不明者一覧

氏名	卒回	科									
----	----	---	----	----	---	----	----	---	----	----	---

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

会費納入のお願い

本会報に同封の郵便振替用紙またはコンビニ・郵便局兼用振替用紙にて、年会費2千円の納入をお願いします。数年分をまとめて振り込んでいただいても、各支部でまとめて納入いただいても結構です。なお、80歳以上の方は無料です。令和4年度会費納入者名簿を本会報に同封していますのでご参照ください。

来年度総会のお知らせ

令和6年6月16日(日)に農学部にて開催予定です。総会ですので、皆様ご出席下さい。出席される方は事務局までご連絡下さい。

逝去者一覧

鈴木 裕	旧職員	令和5年2月6日	庶務課より	滝 博	学3		返信はがきより
和田 定	旧職員	令和5年2月	返信はがきより	河瀬 義清	学4	令和4年5月	ご家族よりTEL
藤本 豊	46・中1	令和5年1月14日	返信はがきより	高尾浩一郎	学6	令和4年4月22日	返信はがきより
長田 徳雄	47・中2		ご家族よりTEL	鐘尾 正志	学6	令和4年7月5日	返信はがきより
谷本 照雄	47・中2	令和4年1月7日	返信はがきより	東原 孝規	学6	令和5年9月20日	長尾稔(学6)様より
森本 昭吉	47・中2	令和元年8月19日	返信はがきより	植原 正義	学7	令和5年2月28日	ご家族よりTEL
大山 光雄	中2	令和4年5月6日	返信はがきより	辻野 節雄	学7	令和4年5月	返信はがきより
今雪 哲郎	農専1・旧職員	令和4年7月2日	返信はがきより	麓 寿	学7	令和5年5月14日	返信はがきより
長井孝二郎	農専1	令和4年7月23日	返信はがきより	齋藤 友顧	学8	令和5年2月4日	西讃支部より
宮西 元一	農専1	平成31年3月	返信はがきより	藤井 高尚	学9		返信はがきより
成瀬 七朗	農大1	令和4年3月5日	返信はがきより	藤原 和明	学9	令和2年	ご家族よりTEL
穴吹 吉夫	42・農専2・農大1・旧職員	令和5年1月3日	ご家族よりTEL	津田 和美	学11	令和4年2月	返信はがきより
高橋 忠	46・中1・農大2	平成28年7月12日	返信はがきより	平田 功	学16	平成7年頃	ご家族よりTEL
福井 正夫	農大2	令和4年9月26日	返信はがきより	穴見 光良	学16	令和4年1月	ご家族よりTEL
牟禮 俊雄	農大2		京滋支部より	小合 栄三	学18	令和5年1月3日	返信はがきより
岩倉 寛	学1	令和3年1月11日	返信はがきより	青木 裕美	学20		ご家族よりTEL
池内 弘	学1	令和4年12月19日	返信はがきより	安達 博	学27	令和4年8月	五井正憲(学8)様より
糸目 末夫	学1	令和3年3月5日	山本英雄(G14)様より	六郎万政洋	学32	令和4年5月5日	返信はがきより
反田 勉	学1	令和4年6月	返信はがきより	鳥越 克博	学33		返信はがきより
三好 照男	学2	令和4年8月3日	返信はがきより	加藤 敬	学55	令和4年ご逝去	農学部教員より
高見 正典	学2		ご家族よりTEL				

■高松東部支部＋高松支部の合同懇親会

高松支部評議員 田辺 和司 (学20)

2022年11月13日（日）、高松東部支部と高松支部の各支部総会と合同の懇親会を大渚亭屋島店で開催しました。今回は2018年9月に続いて2回目の合同開催となります。

来賓の岩田豊志会長（学20）と高松東部支部11名、高松支部4名の合計16名での開催となりました。

高松東部支部総会では、長年支部を支えてきた平賀 博支部長（学11）に代わり、新たに片山哲治支部長（学15）が選出されました。因みに片山支部長と高松支部の木村義一支部長（学19）は同じ作物学研究室出身で旧知の間柄です（因みに私も）。

今回、高松東部支部の里石明敏県議（学31）にもご参加いただき、8月の補欠選挙立候補のいきさつや高松市の街づくりなどについてご講演いただきました。

懇親会は、自己紹介に丁度良い？参加人数だったこともあり、全員が近況などについて一言ずつ話しながら和気あいあいと進められ、次回は2年後、高松西部支部にも声をかけて開催しようということになりました。

ゆくゆくは、高松の全支部合同（高松総支部？）で開催できればと思います。



■池戸会高松北部地域3支部役員合同懇親会を開催

高松東部池戸会 事務局 黒川 幸重 (学25)



高松東部池戸会では、会員数の減少と高齢化により、近年では隔年ごとに総会・親睦会を開催しています。また、近隣の支部とも相談し、平成30年9月には高松支部と合同で、各支部での総会と、屋島山上の「れいがん茶屋」で夕日を見ながらの合同懇親会を開催し、会員相互の親睦を深めました。

その後、新型コロナウイルスの感染拡大により、一同に会しての総会・懇親会は中止していましたが、昨年（令和4年）は11月に、高松市高松町の大渚亭本店で総会を開催するとともに、高松支部との第2回合同懇親会を開催しました。

本年（令和5年）は、高松西部支部の役員の方々もお誘いし、次回の総会・懇親会の準備を兼ねた、合同の役員懇親会を9月26日高松駅前の居酒屋「わらじ路」で開催し11名が参加しました。高松東部池戸会の片山会長のあいさつの後、打合せ事項として、令和6年秋頃に高松西部支部も新たに加わり、各支部の総会と3支部合同の懇親会を開催することを申し合わせしました。

当日は、香川大学農学部長並びに大学長の要職を歴任された一井先生が特別参加して頂き、近況などごあいさつを頂きました。その後、高松支部の木村会長による乾杯、懇親会と続き、瀬戸内の魚料理に舌鼓を打ちました。懇親の途中では参加者全員から自己紹介を頂き、また記念写真を撮るなど会員相互の親睦を深めることができました。中締めは高松西部支部の中西会長にお願いし、散会となりました。今後とも、本部との交流を継続しつつ、各支部との連携と会員相互の親睦を図る所存です。

■高松龍雲支部だより

高松龍雲支部長 白坂 正明 (学1)

高松龍雲支部は、一宮、仏生山、多肥、三谷の旧4町を区域として池戸会龍雲支部として昭和53年2月に発足して(初代支部長七条雄一氏木田農第19回卒)今日まで45年間歩んできました。この度のコロナウイルス感染症の感染拡大までは、毎年総会と懇親会を開催して池戸会本部から副会長等を迎えて近況報告を頂き、懐かしく懇親を深めたものでした。このコロナウイルス感染症で支部総会・懇親会が開催できないこの4年の間に次期支部長と評議員(会計担当)の予定者が続いて亡くなり、次の予定者が難しくなりました。そこで、池戸会本部の新会長岩田豊志氏が学20回卒ですので、学20回卒前後の方々と組織を作り直し、高松中央支部が現在、組織を再生中のようなのでこの際、龍雲支部と高松中央支部が統合した支部として誕生するよう学20回卒前後の方々と協議を進めている近況です。

(懐かしい写真を掲載します)

平成22年2月24日 堀江奥ノ湯温泉にて



〈前列右から〉
石井幸憲(三谷)
溝淵昭七(多肥)
山端政雄(仏生山)
白坂正明(三谷)
田中道男先生(本部)
石塚 萌(多肥)
山上 徹(多肥)
太田 賢(多肥)
〈中列〉
堀江薫一(仏生山)
〈後列右から〉
松島美一(一宮)
中山忠重(多肥)
野田正一(多肥)
金森友市(多肥)
矢部 薫(一宮)
大鹿久義(多肥)
岡川弘美(多肥)
坂本龍雄(三谷)
森安政行(三谷)

■西讃支部

西讃支部幹事 合田 隆弘

8月20日、第8回池戸会西讃支部総会を観音寺市の第一会館にて4年ぶりに行うことができました。しかし未だコロナの影響があり、直前になって感染し不参加となる会員や、高齢の親への感染を恐れ、参加を断念せざるを得ない会員もいて、参加者は20名で、少なく感じました。ただ、学67回の若い会員が今回初めて参加してくれたことで、未来に向けた明るい光がさしているような気がしております。

今回は大学支部より多田邦尚支部長と、池戸会会長に昨年就任された岩田豊志本部長(西讃支部副会長)にも参加して頂きました。支部総会が3年間できなかったこと、また仕事の関係で参加できなかった年もあり、さらに、岩田本部長とは観音寺第一高等学校での同級生である浜田前香川県知事と、旭川での県人会に参加したことなどが重なり、岩田本部長は、かなり久しぶりの支部総会参加になったと感じていたようです。他の参加者もやはり久しぶりと感じた為か、以前にも増して会話も弾み、お酒もおいしく飲んで頂けたのではないかと感じております。

今回、支部総会の準備には、幹事より若い人が以前にも増して積極的に行動していただき、幹事はかなり楽ができました。また総会での多田先生のスピーチでは、農学部周辺のきれいな写真を多数見せていただきました。変わりゆく農学部、昔から変わらず懐かしい農学部、参加者全員、郷愁に浸ったり変化に感心したりして楽しく先生の話を押聴させていただき、みなさん心が和まれたことと思います。また、池戸会に残っている古くからの写真を使ったアーカイブも見せていただきました。

規模は少し小さくなりましたが有意義な支部総会になり、幸せな時間を過ごせたことに感謝したいと思います。池戸会と農学部、さらには香川大学の今後の発展を楽しみにしつつ、また来年の支部総会を待ちたく思っています。



■大阪支部だより

柳川 和彦 (学26)

大阪支部はコロナでここ数年活動を休止しておりましたが、令和5年5月28日(日)、大阪城が正面に見える素晴らしいロケーションの「ホテルKKR聚楽第の間」にて役員会を開催いたしました。

議題は今年の総会をどうするか?です。結論から申し上げますと、本学の秋の収穫祭直後の11月19日(日)に同ホテルにて「大阪支部総会を開催」する、そのための準備(イベントの企画や案内状の送付等)を9月3日(日)に実施する、ということになりました。久々の総会でどれだけ同窓生が集まれるかわかりませんが、若い人たちにも積極的に集まってほしいものです。なお、大阪支部総会に初めて参加する人には参加会費(8千円)を無料、2年目は半額にいたします。

今年も大阪支部は元気です。皆様よろしくお祈りします。



■岡山支部総会・懇親会

支部長 尾野田 瑞穂

10月14日(土)午後6時より岡山市のRyoutei奉還町本店において、総会及び懇親会を開催しました。本部からは林副会長、松沢先生をお迎えし、出席者27名で、総会を開くことが出来ました。

会の開催が4年ぶりということもあって、参加者が27名と例年に比べ少なめではありましたが、食べて飲んで昔の話を語り合いながら、楽しいひとときを過ごしました。

先輩からは会の今後についての課題提議もいただきましたので、課題解決に向けて、本部の方々とも相談しながら取り組んでいかなければならないと思っています。



■大川支部だより

支部長 千田 良信 (学19回)

大川支部総会・懇親会は、令和5年9月16日にさぬき市津田町「大川オアシス」で来賓の池戸会本部理事木村義男教授をお迎えして、会員13名が集い元年以来4年ぶりに開催しました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症も落ち着き日常生活が戻ってきたことから、香川大学農学部池戸会前杉本利行会長、前々回の五井正憲会長や主だった世話人の方に相談をしたところ快く承諾していただき無事に開催できました。

4年ぶりの支部総会は、来賓の木村理事から農学部池戸会の近況報告・香川大学農学部開学120周年記念式典が7月15日に開催されたこと、これからの150周年記念事業に向けての取り組み等のお話を聞くことができました。

支部長からは、令和5年度池戸会評議員会・総会の報告と香川県内の池戸会支部の動向について報告して、支部役員改選と今後の支部組織の活性化について意見交換を行いました。

懇親会は、香川県立農科大学2回生卒、香川県庁退職後現在に至って不動産業をしておられる国方弘会員(91歳)の元気で力強い乾杯の音頭で始まり久しぶりの再会を喜び合いました。恒例の参加者相互の近況報告は、大学時代の思い出話、健康面や生きがい、地域活動などで大いに盛り上がり勇気と元気をいただきました。また、現役会員による香川県の農業行政や今後の地域農業のあり方などを聞き香川の農業について考えるよい機会となりました。来年度は多くの会員の皆様の参加をお願いします。



■徳島支部だより

支部長 川崎 陽通 (学24)

徳島支部は、コロナ禍のため令和元年10月26日支部総会を最後に、4年余りの間、その具体的活動の停止状態が続きました。支部会員の皆さんには、この間ご心配をおかけしたことと思えます。

令和5年となり、徳島県内でのコロナ感染者数も減少し落ち着いてきたことから、2月25日には支部活動の再開の手始めとなる第一回目の役員会を開催しました。参加役員数6名の少数精鋭での開催となり、令和5年の支部活動等について議論し、その後の懇親会では、これまでの4年間の鬱憤を晴らすがごとの盛会となりました。

5月、「新型コロナウイルス感染症」の2類から5類への移行を契機に社会全体に各種イベント開催容認の流れができたように感じております。

徳島支部として、この流れに乗り4年ぶりとなる支部総会の開催へ向け9月9日に、第二回役員会を実施したところであり、出席役員数は10名。この役員会では、まず、令和5年度池戸会本部の動き、理事会、評議員会・総会や「香川大学農学部開学120周年記念式典・記念講演」の報告がされました。つづいて、協議事項に入り、特に10月に開催を予定している令和5年度池戸会徳島支部総会を、4年間のブランクを打破し、コロナ前さらにはコロナ前以上の参加者数の実現を目標に、今後の開催準備の中での工夫点などが活発に話し合われました。その後の懇親会では、徳島支部の今後の活動やこれまでのコロナ禍4年間の過ごし方、経験談などを話題に語り合われ、盛況のうちに幕を閉じました。

添付した画像は、9月9日第二回役員会の集合写真です。



■園芸学科 (学15) 同窓会

藤原 弘道 (学15)

(コロナ禍で延期 53年ぶりの同窓会)

毎年、年末に届く「池戸会報」、我が園芸学科(学15)は一度も学科としての同窓会を開催していない。令和2年正月明けから香川・徳島・岡山の世話人5名で、同窓生の近況・安否確認から始め開催準備に取り組み、4月22日の開催日を待つだけとなった。4月2日、香川のO君より「大学から新型コロナウイルスの関係で学内見学は遠慮してほしいとの連絡があった」の電話が入る。じっと我慢の子で3年待った今年(R5)4月20日、五井先生・長谷川先生をお迎えし同窓会の開催にこぎつけた。卒業後始めて会う者もいたが、5分前の事はすぐに忘れても、50年以上昔のことには多少古くなった昭和の脳もすぐに反応。先生お二人を交え学生時代の思い出話に花が咲き、同窓生8名で卒業後の仕事や現在の生活・身体の調子のことなど近況報告。話つきない一夜をともしました。

(農学部見学 4月21日)

池戸会事務局の田坂書記さんに農学部玄関で出迎えをいただき、池戸会館で荷物を預けた後、多田先生に農学部長室まで案内していただく。秋光農学部長より農学部は今年が開学120周年に当たり、地域農業・産業との連携や学生の海外留学、留学生の受け入れなど国際社会で活躍できる人材の育成に取り組んでいることなどの説明を受ける。吉原先生には希少糖生産ステーションの見学案内をいただき、生産工程の説明を受けた後希少糖の甘み体験。奥田先生にはかつて学んだ園芸学科の講義室や、“希少糖研究発祥の碑”のある構内(昔のひょうたん池があった当たり)への案内をいただき、屋上から白山をバックに記念撮影。今回の同窓会機に作成した名簿を基にお互いに連絡を取り合い、“100歳までは自分のことは自分で出来るよう元気で頑張ろう”と誓い池戸の学び舎を後にしました。

農学部訪問ではお忙しい中ご説明をいただいた農学部長様をはじめ、案内して下さった諸先生方、連絡調整でお世話になった池戸会事務局に厚くお礼申し上げます。



園芸学科、学15(懇親会) R5.4.20



園芸学科、学15(白山) R5.4.21

園芸学科第22回卒業生

幹事 阿部 信尚、大石 雅章、日野 潤

古希記念同窓会を開催しました

令和5年10月20日から21日にかけて、関東、近中四、九州から14名の参加のもとに古希記念同窓会を開催しました。20日はトレストア白山で懇親会、21日はチャーターしたバスで農学部近辺、附属農場、教育学部近辺を周回し、さぬきうどんを堪能しました。

四十数年ぶりに会う同窓生の容姿は激変していますが、声は昔のままでした。附属農場では、土曜日にもかかわらず、職員の方から最近の圃場での取り組み状況について説明していただきました。当時の圃場の面影はありませんでしたが、実習状況やここでは記載できないようなことも思い出した同窓生もいました。

卒業後、種苗、農薬、食品加工関係会社勤務者、コンサルタントの会社を立ち上げた者、小・中・高等学校の教員、短期大学の教授、県・市の職員など様々な職場で勤務した後、一線を退きました。

現在は、リンゴ園の経営者、産直出荷者、ボランティア活動を勤しんでいる者、会社の社長、大学の非常勤講師等を務めている者、悠々自適者、老老介護者等様々な人生を歩んでいます。

数年後にまた同窓会を開催することを約束して解散しました。

(文責 日野)



職員の方とともに附属農場玄関前でパチリ

園芸学科 (学33・34) 同窓会

朝倉 博文 (学34)

令和5年9月30日、香川県高松市で昭和59年度入学の園芸学科同窓会を開催しました。今回は、同日15時から香花会による「深井先生を囲む会」の開催にあわせ、地元での開催となったわけですが、香花会では大変お世話になった五井先生や、懐かしい後輩に再会できました。

同窓会は前回(平成28年12月in名古屋)から7年ぶりでしたが、千葉、静岡、山口、徳島から総勢11名の懐かしい面々が集まってくれ、卒業以来35年ぶりに再会した人や、すでに定年退職し第二の人生をスタートしている人もいて、おおよそ記憶にない昔話から現況の話など、学生時代に戻ったような感覚で楽しい時間を過ごしました。次回はみんなが集まりやすい関西方面でやろうと盛り上がり、二次会へ向かいました。かけがえのない仲間との集い、可能な限り継続したいと思います。



■農学科卒業50周年記念同窓会(学15回)

片山 哲治(学15)

私達は戦後の第一次ベビーブーム、俗に言う『団塊の世代』。小中高校と教室が足りず増築ラッシュ。農学部でも古い木造校舎を壊し新たに鉄筋コンクリートの建物を次々と建設していた。大学時代は全国的に学生運動が激しい時期で、我が農学部でも4回生当時に学生による動きがあった。

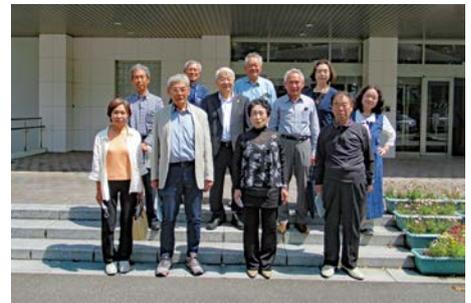
あれから50余年、全員後期高齢者となり30人いたクラスメートは既に4名が他界され、私達のクラス担任をされていた辰巳修三先生、木暮(玉置)秩先生を始めお世話になった多くの先生方が既にお亡くなりになっている。

そんな中、卒業後50年の節目にあたる2023年5月16~17日(コロナ禍で3年遅れ)に記念同窓会を三木町にあるトRESTA白山で同窓生・ご家族合わせて12名の参加を得て開催した。

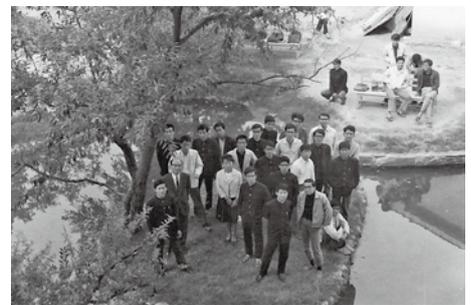
初日の懇親会は何時ものように物故者への黙祷で始まり、参加者からの近況報告、歓談の後逍遥歌斉唱で中締め。会場をかえての2次会では、昔の写真を集めて製作したビデオを皆で観賞し、50年前の若かりし我が姿に少し照れながらも当時の校舎や同窓生、お世話になった先生方を懐かしく偲んだ。そしてこれからの終活のあり方や健康法など話が尽きず深夜まで旧交を温めた。

2日目は母校訪問。思いがけず秋光和也農学部長様からお招きを頂き全員で学部長室にお邪魔し、直々に農学部の概要や研究内容・成果等をご説明頂いた。その後希少糖施設など学内を見学し、最近建て替えられた真新しい学生食堂で昼食を摂った。50年前の古びた木造の食堂を思い起こしながら、近代的な食堂施設や利用する学生さんの明るくて垢抜けた姿を見るにつけ、懐かしさと共に隔世の感を禁じ得なかった。

今回の母校訪問では、農学部長様を始めご案内を下された多くの先生方や池戸会事務局の方々には大変お世話になりました。ありがとうございます。お陰様で50周年記念同窓会が思い出深い会合となり参加者一同感謝・感激でした。



50周年記念同窓会の記念写真



瓢箪池での集合写真(1970年頃)

■クラス会報告(昭和56年度園芸学科入学)

園芸学科 松田 英司(昭和56年度入学)

令和5年11月4日(土)、香川県宇多津町のホテルアネシス瀬戸大橋を会場にクラス会を開催しました。6年前のクラス会の際に、オリンピックの年に行くことを決めていましたが、その後新型コロナウイルス禍となり、実施が叶わないままになっていました。今年5月に新型コロナウイルスも5類に移行したことから、実施を望む声もあり、今回母校のある香川の地で開催することになりました。

クラス会には同窓生11名と恩師の市川先生にもご出席いただき、総勢12名で楽しいひと時を過ごすことができました。出席者は17時頃から順次到着し、中には前日から来県したり、大学の見学、讃岐うどんを食したりしてきた方もいました。

クラス会は、18時からの開催でしたが、会の前に集合写真の撮影、この春に亡くなった旧友の冥福を祈るべく黙とうを行いました。そして、市川先生のご挨拶と乾杯の音頭でクラス会が始まりました。還暦を過ぎ容姿の変化は否めませんが、話をしていると大学時代にタイムスリップしたように昔話に花が咲きました。

皆さんからの近況報告では、家業や引き続き勤務している方、悠々自適に生活をしている方などいろいろでした。家庭のことや親の介護、孫の面倒、持病のことなど共感できる話題も多く飛び出しました。市川先生からは現在の研究活動とその成果が商品化に繋がっているというお話をうかがいました。まるで大学で講義を受けているような気になりました。予定の3時間もあっという間に終わってしまい、次回は2年後に関西で開催することを決め、お開きとしました。ホテル内での二次会でも、話は尽きることなく部屋に戻ったのは深夜でした。

翌日は、ホテル近くの四国水族館に行きました。3連休ということもあり多くの来客でしたが、童心に返ってイルカショーや珍しい魚、動物などを見学しました。限られた時間でしたが、楽しく有意義な時間を過ごすことができました。



年会費・寄付金の
入金に便利！

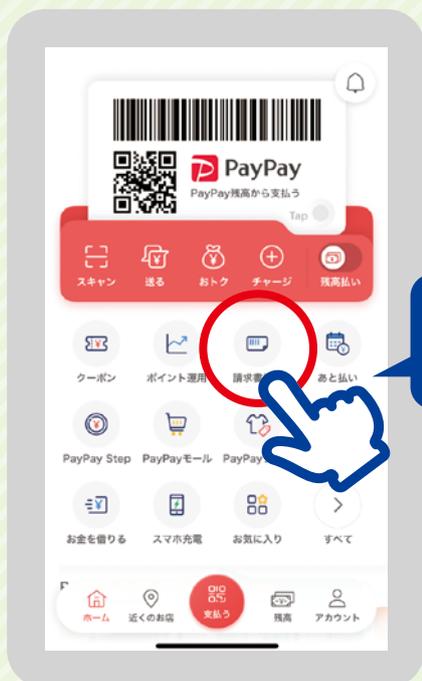
ご自宅からでも
入金可能！



PayPayが利用できる
ようになりました。

いつでも！
どこからでも！ 簡単にお支払いいただけます！！

Step 1



請求書払い
を選択

Step 2



内容を読んで
(請求書を読み取る)
をタップ

Step 3



コードリーダーで
振込用紙表面の
バーコードを
読み取ってください

Step 4



支払先の
「小野高速印刷株式会社」は
同窓会が委託した
専門の代行業者です

内容を確認して
〔お支払い〕

池戸会特別企画

香川大学農学部開学120周年記念品一式

「記念コースター、トートバック、希少糖秘話ボックスセットなど」を抽選で10名様にプレゼント！

記念コースター
吉祥紋様 和柄：麻の葉



令和5年7月15日に香川大学農学部開学120周年記念式典が執り行われました。この式典でお配りさせていただいた記念品一式をプレゼントいたします。

- ・記念コースター
- ・トートバック
- ・希少糖秘話ボックスセット
(何森先生より寄贈)
- ・クリアファイル
- ・大学資料(研究概要、研究成果の実用化、グローバル教育への取り組み)

希少糖秘話ボックスセット



トートバック



クリアファイル



- 大学資料
- ・研究概要
 - ・研究成果の実用化
 - ・グローバル教育への取り組み



応募資格 令和5年度の会費を納められた池戸会正会員(80歳以上で会費納入を免除された方を含む)および入会金を納められた池戸会準会員。

会報に同封のはがきに**プレゼント券**(このページ下部)を貼付して、**郵便番号、現住所、氏名(準会員は学生および保護者の両名)、電話番号、卒業年度(在学年次)、学科等、近況通信等**を書いて下記まで郵送して下さい。ご記入いただいた近況は池戸会報に掲載する場合があります。

送り先 香川大学農学部同窓会 池戸会事務局
〒761-0795 香川県木田郡三木町池戸2393 香川大学農学部内

応募締切 **2024年3月15日 金曜日(必着)**
当選者発表池戸会報66号(池戸会ホームページでも発表します。)

問い合わせ先 香川大学農学部同窓会 池戸会事務局 電話：087-898-8615
E-mail：ikenobe-ag@kagawa-u.ac.jp



『エコゼリー(Eco Jelly)』当選者のお知らせ

池戸会報第64号でご案内しておりました池戸会特別企画「エコゼリー(Eco Jelly)」に多数のご応募いただきましてありがとうございました。厳正なる抽選の結果、10名の当選者を発表いたします。

渡辺 満 様	植松 靖夫 様	村山 勝一 様
盛野 元 様	柳川 和彦 様	佐藤 義徳 様
武智 徹 様	渡辺 典明 様	小笠原羊子 様
藤田 幹 様	(順不同)	



池戸
65

記念品一式
プレゼント券



IKENOBEKAI NEWS vol.65

会費納入および住所調査のお願い

本会報に同封の郵便振替用紙又はコンビニ振込にて、年会費2千円の納入をお願いします。数年分まとめて振り込んでいただいても、各支部でまとめて納入いただいても結構です。(80歳以上の方は無料です。)また、この会報送付時の宛名紙に印刷された返信ハガキにて最新住所情報等をお寄せ願います。なお、本会報の発送業務は印刷会社に委託しました。

池戸会報 vol.65

発行：2023年12月

印刷：2023年12月

発行所：香川大学農学部池戸会

〒761-0795 香川県木田郡三木町池戸2393

TEL・FAX 087-898-8615

E-mail: ikenobe-ag@kagawa-u.ac.jp

郵便振替口座 01620-1-5001 (香川大学農学部池戸会)

編集担当：多田 (学28)、木村 (学31)、奥田 (学34)、

一見 (学37)、田淵 (学37)、渡邊 (学38)、

田中 (学40)、五味 (博15)、山口 (修32)、

米倉 (修32)、吉原 (学49)、杉山 (学50)、

松沢 (学53)、田坂 (事務局)

印刷所：小野高速印刷株式会社

〒870-0913 大分県大分市松原町2-1-6

TEL 097-558-3444 FAX 097-552-2301

